

# 体育祭について

保健医療学部理学療法学科 岩上りさ (白鷗大学足利高等学校出身)

6月23日、24日の2日間にわたり、体育祭が開催されました。今年は昨年とは違い初日は夜、スクエアガーデンでの開催となりました。種目は、初日が部活動対抗リレー、二人三脚、フォークダンス、2日目が綱引き、借り物競争、部活動対抗リレー決勝戦、紅白+教師対抗リレーです。当日は実行委員としての仕事が多く大変でした。しかし参加者が一生懸命競技に挑んでいる姿や、それを楽しそうに応援している学生の姿を見ていると、そんな仕事にもやりがいを感じ、何より私自身も楽しむことができました。結果は僅差で紅組(赤松寮とすみれ寮)の勝利でしたが、勝敗に関係なく周囲から「楽しかった」という声がたくさん聞こえ、運営に携わった一人としてとても嬉しく思いました。体育祭実行委員長をはじめ、こんなに盛り上がる体育祭を作り上げてくれた皆さんに心から感謝しています。



## "NO Showa No Life" 昭和大学 寮祭

6月24日(土)・25日(日)

この寮祭は必ず参加を推奨!

開催日時 ※雨天決行  
24日(土) 12:30-17:45  
25日(日) 9:45-16:10

バザーin体育館  
24日(土) 13:00-17:00  
25日(日) 10:00-15:30  
※抽選会は両日開催

昭和大学 富士吉田キャンパス  
Tel: 0555-22-1403

# 寮祭

医学部医学科 山本 眞琴 (都立戸山高等学校出身)

6月23、24、25日に体育祭・寮祭が開催されました。今年度は、模擬店で使う食器をリユースのものにしたり、前夜祭の代わりに体育祭を行ったり、例年にない新たな試みにも挑戦しました。入学してから2週間ほどで実行委員中心に準備が始められ、ほぼ初対面の人と協力して活動した人が多かったと思います。意見の異なる友人とぶつかることもあったと思いますが、議論を重ねていくことで、当日素晴らしい寮祭を行うことができました。イベントでは軽音やアカペラなどの発表や、お笑い、最強コンパ決定戦が行われ、模擬店では様々な部活・コンパが美味しい食べ物や飲み物を作っていました。SGSCではお化け屋敷が開かれ、体育館ではバザーや健康診断など、様々な出し物を行い、私達学生の父兄だけでなく、富士吉田地域の方々にも楽しんでいただける内容になっていたと思います。寮祭開催に当たって様々な支援をしてくださった先生方や事務課の方々、一緒に盛り上げてくれた学生の皆さん、本当にありがとうございました。

(注)コンパ: 昭和大学では指導担任制度をいいており、各教員が1グループ16~24名の学生の担任となつてきめ細かい指導を行っています。このグループの通称が「コンパ」です。



# ハロウィンパーティー

医学部医学科 吉岡 樹正 (筑波大学附属高等学校出身)

かぼちゃを彫ってジャック・オ・ランタンを作りました。ジャック・オ・ランタンを作ることはめったにできない体験であるとともに、また、ハロウィンパーティーが盛り上がりと思ひ、友達に声をかけて当日の朝から作業に取りかかりました。大学の畑から自然教育園園長である富士吉田教育部の倉田教授がかぼちゃを収穫し、運んでくださったのですぐに彫る作業に取りかかることができました。当日実際にかぼちゃを彫ってみると意外とスムーズに彫れ、だんだん凝った作品を作ることに達成感を感じるようになっていました。作業に熱中するあまり、気がついたら午後になってしまいました。スクエアガーデンで行ったハロウィンパーティーでは、みんな様々な仮装をしていて、盛り上がりました。普段と違う恰好をしていていつもと違うみんなの雰囲気ワクワクしました。また、いつものグループがダンスを踊り、さらに盛り上げてくれました。一体感に包まれながら活発なパーティーを楽しむことができ、すばらしいハロウィンパーティーを開くことができました。



# クリスマスパーティー

クリスマスパーティー実行委員長 医学部 西山 裕太 (暁星高等学校出身)

12月9日~10日にクリスマスパーティーが行われました。「達成感」。この3文字が終わった直後の率直な感想でしょうか。今思えば、実行委員長になったのは急な出来事でした。寮で同じフロアの友人から誘われて、暇を持って余っていた私は、興味本位でその招集会議に参加しました。そして突然、委員長に任命され…。最初は本当に混乱しました。何から手をつければいいのか。でもそんな自分を支えてくれたのは、実行委員のメンバーと100人を超える部門員の方々です。中心となるイベント、盛大な立食パーティー、季節感満載の装飾、クリスマスにちなんだ冬の花火。どれも大成功に終わったのは、何よりも共に働いていただいた実行委員、並びに陰で頑張っていた部門員のおかげです。後夜祭で多くの人がステージに群がり盛り上がりを見せて、涙が出てきました。味わったことのない達成感に立ち止まりました。最後になりますが、支えていただいた全ての方々への感謝をこの広報誌をお借りしてお伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。



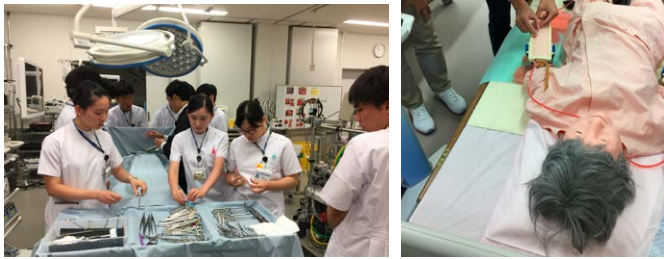
# 初年次体験実習

## 学部実習

### 医学部学部実習について

医学部医学科 土方 美奈子 (学習院女子高等科出身)

医学部学部実習の3日間は、医学と医療を成り立たせる様々な分野への理解を深め、今後の学びや将来について考えるきっかけとなりました。初日は昭和大学鳥山病院に伺い、発達障害医療研究所と臨床薬理研究所を見学しました。脳科学と関連させた発達障害の研究や治療の詳細な流れについてのお話はとても興味深く、臨床研究の重要性を肌で感じる事ができました。2日目は学内で生化学の実習を行い、前期に講義で教わった酵素活性の実験を学ぶことができました。最終日のテルモメディカルプラネックスでの実習は、とりわけ強く印象に残っています。多数の医療技術シミュレーターを備えた施設を見学し、縫合、採血、心臓カテーテル等の実習を行いました。方法を理解しても、実際に行うと思った通りにできないことが多く、正しい知識を学んだうえで練習を重ねる大切さを実感しました。今回学んだことを糧に、これからの学習に意欲的に取り組んでまいります。



## 病院実習

薬学部 内田 桃子 (神奈川県立小田原高等学校出身)

実習先の昭和大学横浜市北部病院では、入院患者さんが病院で「暮らしている」姿を目の当たりにし、病院は何よりもまず患者さんの生活の場なのだと思いました。できるだけ患者さんの元来の生活を崩さず、できるだけ短い期間で元の生活に患者さんを「戻す」こと。それこそが本来の医療のあるべき姿であり、病院で勤務している方々の姿から、このことを十分に把握した上で医療従事者としての任務を果たすことが、患者さんに寄り添ったケアを行うためのいちばんの近道であることを学びました。それまで「病氣と闘う場所」というような暗いイメージのあった「病院」で、実習中何度も医療のあたたかさに触れることができ、非常に感銘を受けたと同時に、自身の意識の改革の必要を感じた1日でした。現場で活躍する先輩方の姿を見て、医療を志す思いが一層強くなりました。ご指導いただいた昭和大学横浜市北部病院の皆さま、昭和大学の教職員の方々に厚くお礼申し上げます。



## 施設実習

### 施設実習での学びと成長

歯学部歯学科 引田 彩香 (千葉県立長生高等学校出身)

施設実習において、特別養護老人ホーム「いちの木」で3日間実習を行いました。施設内の掃除、利用者さんとお話、レクリエーションなどをさせていただきました。初日は積極性に欠けていましたが、残りの2日間は初日の反省を活かして、スタッフの方に何をすべきかを自分から質問をするようになりました。スタッフの方々は利用者さんの体調や小さな変化に気を配り、情報共有を毎日欠かさず行っていました。実習の中でも、地元の歯科医院の方が利用者さんの口腔ケアをしているところが印象に残りました。施設だけではなく、地域全体で利用者さんのケアをしていることを実感しました。利用される方に対するコミュニケーションや、実習で学んだ敬語の使用方法を医療の場で役立てていこうと思います。私たちの実習を受け入れてくださった施設の利用者さん、そのご家族の方々、スタッフの方々、そしてご指導くださった昭和大学の教職員の方々に御礼申し上げます。



## 在宅訪問実習

保健医療学部看護学科 竹田 遙 (長野県鹿代高等学校出身)

富士吉田地域にお住いの高齢者さんを訪ねてその方の人となりや聞かせていただくという在宅訪問実習。高齢者さんのお宅までの道のりを学生が調べ、公共の交通機関を使うことによってその高齢者さんが住む地域のことを知り、高齢者さんの普段の生活を想像しながらその人の人となりや考えます。私が伺ったお宅では、高齢者さんとその娘さんの二人が私たち学生に應對していただきました。緊張していた私たちに対し自家製のしそジュースを出してください、ジュースの優しい味が私たちの緊張をほぐしてくれました。高齢者さんは自分のことよりも自分の家族や親戚のことについてたくさん話してください、親族のことをとても大事にしている方だと思いました。また、私たちの質問にも一つ一つ丁寧に答えていただき、会話もとても盛り上がったため、別れが寂しく感じました。見ず知らずの私たちにもよくくださる、人々とのつながりを大切にしている方だと感じました。最後に、実習にご協力いただいた富士吉田に住む地域の皆様、ご指導くださいました昭和大学の教職員の方々に御礼申し上げます。



富士吉田教育部 前田昌子 撮影

## 退任の挨拶

田中 一正



今年が平成30年、新しいカリキュラムがスタートします。この話は後進に譲るとして、平成18年(2006年)薬学部が6年生になり、新たに4年生の保健医療学部を加え4学部の大所帯の全寮制がスタートする時に、教養部から改組された富士吉田教育部に赴任してきました。32年ぶりの里帰りでした。翌19年から学部連携PBL(Problem Based Learning)がスタートし、21年から学部連携初年次体験実習が始まり、23年からは6年生の寮生活で行う2週間地域在宅医療実習プログラムが始まり、27年この6年生の在宅医療に向けた基盤作りとして、在宅医療入門の授業とともに市内のお宅を訪問する在宅訪問実習が開始されました。すべてのカリキュラムは1年次に始まり6年間(4年)の体系的・段階的チーム医療学習として構成されています。このようなチーム医療教育は全国的にもまれですが、本学にはチームで共同生活する全国でもまれな素地がありました。そうです!寮生活を単なる共同生活の場から共同学習の場へ引き出す教育改革でした。今では当然の学部連携学習ですが、それはそれは多くの教員・職員が学生の皆さんが行われるPBLのような(シナリオのない)目標達成を目指した議論を積み重ね成し遂げられてきました。「何を教えたか」ではなく、「結果的に何が習得できたか」に着目した教育手法への変更です。学習者の行動に価値ある変化を起こすことが教育であるならば、まさしく富士吉田は私のbest-teacherだと思います。なぜならば最も変わったのは自分自身でしたから。また教育を知ることでここに赴任する前に多くの医療者とともにやってきた患者指導は、患者教育として間違っていなかったと知ることができたからでもあります。

今ここに、このようなチャンスを下さった先生、苦難をご一緒してくださった先生方、陰になり日向になりサポートしてくれた方々、共に歩んでくれた学生諸君に感謝いたします。



富士吉田教育部 前田昌子 撮影

## 「医療人への基礎作りの場：富士吉田キャンパス」

富士吉田教育部長 久光 正



昭和大学1年生の皆さん、富士吉田キャンパスによろこそ。私は皆さんと同じく、平成29年4月から富士吉田教育部長として富士吉田キャンパスに参りました。皆さんは将来、医療に携わることで社会に貢献することをめざし、本学に入学しました。本学の特徴は医療人になる基礎作りを富士吉田で1年間の学部混合全寮生活を通して行うことです。医療は「ひと」に施すものです。それぞれの患者さんは異なる歴史、生活、習慣により築き上げた異なる人生を歩んでいます。これらの人々に対応するには皆さんがしっかりした医療人マインドをもたなくてはなりません。挨拶、礼儀、作法、思いやり、順法精神、対話力などの上に医療の知識や技術を積み上げていくのです。昭和46年、今から45年前にも富士吉田で1年間を過ごしました。当時は医学部と薬学部の2学部でした。男子は8人部屋で両学部4名ずつ、2段ベッド4つの寝室と8つの机がある勉強部屋で寝食を共にしました。その時の1年間で私たちは精神的に大きく成長したことを今、確信しています。その成長のきっかけは、友人達との対話でした。政治・恋愛・趣味、いろいろな話題について、深夜まで語り合ったことを覚えています。皆さんも、友人と大いに議論して心を鍛えていただきたいと思います。富士吉田の1年は皆さんの医療人としての人生の貴重な第一歩です。大いに羽ばたいて下さい。

広報誌名称について  
全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をこめて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

# 入学式について

医学部医学科 井原 悠貴 (埼玉県立浦和高等学校出身)

4月12日、明治神宮会館にて入学式が行われました。抜けるような青空のもと、期待に胸を膨らませた新入生たちが続々と集まってきました。式場に全員が着席した後、クワイアクラブの先輩方が校歌の指導をしてくれました。そして、いよいよ式が始まり、学長、理事長からお祝いの言葉を頂きました。校歌斉唱の際には、新入生たちは先ほどの校歌指導の成果を発揮し、声をそろえて歌いました。また、会場全員で昭和大学宣言をしたことは、会場中の一体感を得られ、特に印象的でした。式後は歓迎のセレモニーとして、アカペラ部、MASの演奏、応援指導部の演舞が行われ、会場は大いに盛り上がりました。入学式後、新入生はバスに分乗し富士吉田校舎に向かいました。私と同じように、多くの新入生は自宅を離れる寂しさとともに、新たな仲間と新たな場所で学ぶ寮生活に期待と不安を抱いていたでしょう。近くの席の皆さんとおしゃべりをして、あつという間に富士吉田校舎に到着し、私たちの新たな一年がスタートしました。



# ボランティア「富士登山」競走

秋原 康夫 講師

富士吉田キャンパスの夏期退寮の翌日である7月28日の朝に、本学が2009年より協力している富士登山競走の第70回大会が開催されました。この富士登山競走は富士吉田校舎から五合目(標高差1,500m)もしくは頂上(標高差3,000m)までを一気に駆け上がるというだけでなく、本当にとんでもなく過酷な山岳レースです。その富士登山競走に、本学および昭和大学医学部附属看護専門学校が総勢86名(内訳は1年生64名、薬学部の5年生2名と4年生1名、看護専門学校学生6名、教職員13名)が予防看護に重点を置いてボランティアのスタッフとして参加し、中の茶屋から五合目までの区間にある規定ポイントに数名ずつ配置され活動しました。特に1年生たちは前日までの定期試験による勉強で疲れているにもかかわらず、汗だくになりながら走り登る選手たちを明るい笑顔と大きな声援で励ますとともに、体調が悪くなった選手をみつめては積極的な声をかけたり、マッサージをしたりするなどできばきと働いていました。



## 国際交流 ポートランド州立サマープログラム

歯学部歯学科 船登 勇輝 (岡山高等学校出身)

私は夏休みに入って間もなく国際交流プログラムに参加しアメリカのオレゴン州で3週間を過ごしました。私のホストファミリーは明るくて気のいい男性とその方の会社で働いているメキシコ人の男性が住んでいる家でした。美味しい夕食を作ってくださった週末にはいろいろな観光地に連れて行ってくださったりました。ホストファミリーとは、自分の考えを遠慮なく言うようにしたので、お互いに理解しあえました。また、その日に起こったことや日本についてなど多くのことを話題にあけて会話を努力してみました。このようにして自分自身を追い込むことで大変有意義な時間を過ごせたと思います。そして私が一番思い出に残ったのは、スタッフを含め昭和大学の学生皆がこの期間中にあった私の誕生日を祝ってくれたことです。しかもサプライズで親切で行動力に長けた素晴らしいメンバーと共に最高の経験ができたので私は大変嬉しく思います。



## 全日本薬学生大会優勝

剣道部 近 裕太 (東京農業大学第一高等学校出身)

私は8月に行われた全日本薬学生大会で、個人・団体共に優勝しました。団体戦は2連覇しているので、頼れる先輩がいたため優勝できるのではないかと思っていました。個人で優勝できるとは想像していませんでした。高校時代は表彰されたことはなく、優勝できて本当に驚きました。2年次以降は勉強も大変になりますが、先輩方とともに稽古をすることができずにはいません。そんななか自分の実力が不足していると感じ、もっと強くなりたいという感情と悔しさが残りしました。今回の経験を日本の大会でも活かして、成績を残すことを目標に頑張っていきたいと思っています。また、次の世界大会に出場する機会をいただけたときには入賞したいと思っています。



## 第4回世界大学囲碁選手権戦

薬学部薬学科 高久 智妃 (都立戸山高等学校出身)

私は7月にタイで行われた第4回世界大学囲碁選手権戦に日本代表の一人として出場してきました。私は囲碁を13年やっていて、世界大会に出場するのは初めてでした。世界大会では、ルールや碁石の使い方など日本の大会とは異なるものが多くありました。日本の人と打つだけでなく、世界の人と打つことや、打ち終わったあとに英語で検討するなど交流することができました。そんななか自分の実力が不足していると感じ、もっと強くなりたいという感情と悔しさが残りしました。今回の経験を日本の大会でも活かして、成績を残すことを目標に頑張っていきたいと思っています。また、次の世界大会に出場する機会をいただけたときには入賞したいと思っています。



## 富士吉田での部活動

薬学部薬学科 轟 実菜 (私立武蔵野女子学院高等学校出身)

私は8月に行われた関東薬学生水泳記録大会に参加し、50m背泳ぎと100m背泳ぎで優勝することができました。大学での水泳は今までは異なり、練習時間が少なく勉強との両立が求められ想像していたよりも大変なものでした。そうした中、大学で初めて出場した大会でもっと速くなりたいと思い、富士吉田でできた仲間とともに練習に取り組みました。これが関東薬学生水泳記録大会の優勝という結果につながったと思います。今後は、新しくできた仲間を大切に、泳ぐことを楽しみながらさまざまな大会での優勝を目指していきます。

